

2016年1月15日(金)

みらいへの扉



高等特別支援学校 支援部 第78号

「世界に一つだけのクッション」

1学年支援部 Y. H

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく
お願いいたします。

さて、今年も文化祭が近づいてきました。みなさんは、縫工室
に展示された色とりどりのクッションをご覧いただいたことが
あるでしょうか？本校1年生が週に2時間の「縫工」の授業の中
で、春から半年以上もかけて一人ひとつ完成させた作品です。

私は、本校に勤めて以来毎年この授業に携わり、これまで何十
という作品の完成を見届けてきましたが、全く同じものは一つと
なく、どれも生徒それぞれの個性があふれた作品に仕上がりました。
誰もが完成の時には笑顔になり、自分の作品をじっくりと眺
めたり、手触りを確かめたり、完成の喜びに浸っていました。ク
ラス全員の前で披露すると、自然と拍手がおこり、一人の完成を
皆で喜びます。「色がいいね」や「難しそうな模様なのにすごい」
とほめ、努力をたたえあっている姿を見ると、私まで嬉しくなり
ました。しかし、この完成の時を迎えるまでには数々の苦労や失
敗、挫折があり、いくつもの山を乗り越えなければなりません。
(生徒の皆さんは「うんうん」とうなずいている事でしょう。)
ここからは、完成に至る道のりを少し紹介したいと思います。

このクッションは、ジャバクロスという目の粗い布に、毛糸で
スウェーデン刺しゅうを施したものです。これまで経験したこと
のある生徒はほとんどいないので、最初は針に毛糸を通すだけで
ひと苦労です。つい毛糸の先をなめてから通したくなりますが、
衛生面を考えて、なめてはいけないルールになっているので、細
かい作業が苦手な生徒にとっては余計大変です。基本の通し方を
練習し、それでも何分もかかるという場合もありますが、慣れる
に従って、だんだん自分なりのコツを見つけ、スムーズに通るよ
うになりました。糸が通れば、次は刺しゅうです。

最初は、全員が同じ図案の基礎刺しを練習します。15種類ほ

どの基本的な模様を、紙に印刷された図案を読み取って刺してい
きます。実物を見ないとイメージがわからないという生徒には、昨
年度の1年生が残してくれた見本が大いに役立ちました。毛糸を
引っ張りすぎず、ゆるすぎずということにも気をつけながら、図
案や見本を見て、今刺しているところから横に何目、縦に何段進
んだ所に針を入れるということを常に数え刺していきます。慣れ
た頃には、また次の模様で、一から数えなくてはなりません。一
目間違えただけで、違う模様になってしまい、せっかくできたと思
っても、またほどこいてやり直し…。という悔しい思いをした生
徒もたくさんいます。

基礎刺しが終われば、いよいよクッションの模様を決めます。
教室に飾ってある見本のクッションと同じ図案を探す生徒、テキ
ストをぱっと見ただけでさっと決める生徒、テキストとにらめっ
こでなかなか決められない生徒…。と様々ですが、それぞれがで
きあがりイメージしつつ、クッションの刺しゅうに取り組みま
す。模様が中央にくるように刺しはじめの位置を一緒に考えたり、
細かい図案は何倍にも拡大コピーしたり、慣れるまではチャコペ
ンシルで刺す位置に印をしたり、それぞれにとって必要な様々な
方法での支援をすることにより、時間をかけて、全員が自分の力
で刺せるようになっていきます。

生徒にとって案外難しいのは、毛糸をその段に必要な適切な長
さの見当をつけて切る事です。横にまっすぐ通すだけの図案なら、
布の幅に対してほぼ1倍で足りませんが、複雑な図案になるほど、
2倍、3倍と必要量が変わります。こうして見通しを立てる力は、
今後他の場面でも役立ってくるので、前の経験に次の要素を加味
して見通しを立て、またその結果を振り返るという事を繰り返し
ました。クッションが完成に近づくにつれ、適切な長さの糸が用
意できる生徒が増えてきました。

1回の授業で80分ほどの作業時間ですが、全員が作業に集中
しているときは、本当に静かで、時間があっという間に過ぎてし
まいます。集中力に自信がなかった
生徒も、少しずつ、集中できる時間
が長くなっていったことが自信に
つながったと思います。



このような様々な過程を経て完成
したクッションです。文化祭では
是非、一人ひとりの努力のあとを感じながら、じっくりとご覧頂
けたらと思います。

うちの先生♪ 嶋高生^{しま たかお} 教頭先生

＜◆ゴシック、(ゴシック)はレポーター！＞

☆嶋高生教頭先生にお話しを聞いてみました～☆

◆嶋先生にまずお伺いしたいのはそのガッチリと
されている体型・体格のことですが…



なぜかご存じの方も多いんですが、ボディビルを
やっていたんですよ。(ええ、その噂はしっかり届いています◎
学生時代からされていたんですか?) 29、30歳くらいから
ですねえ。15～6年間やっていたんですねえ。(元々興味を持
っていたんですか?) いえいえ、当時の同僚でボディビル
協会に所属していた先生から誘われて…、いえ「やれ！」
と言われたんです(笑)(私、ボディビルに馴染みがないので
すが、ボディビルってどんなことをするんですか?) 筋肉を
鍛えて見た目を競うんですけどね。日焼けサロンには行きま
せんでしたがよく夏場にプールサイドで焼きました。大会が
あるんですよ。僕は『ミスター尼崎大会(40歳以上の部門)』で
2位になったのが最高の成績なんですけどね。(筋肉隆々な人
って私の身近にはいないのですが、ご家族の反応は? 「カッ
コいいお父さん!」と言う感じですか☆) ダメ、ダメ! 全然
ダメですよ(苦笑) 妻にも娘にも「止めてくれ」って言われ
ていました。真夏でも「薄着は禁止! 体を隠して」って…。
興味を持ってくれたのは男子生徒たちだけでしたね(笑)「ど
うやれば鍛えられますか」とか真剣に聞いてくれたりして。
“からだを鍛える”ということは純粋に楽しかったですねえ。

◆今はなにかされていますか?

最近は何、山登りをしているんです。学校の近辺の山を半日
ほど歩くのが楽しいですねえ。(こちらはどんなきっかけで始
められたんですか?) ちょうど1年前、娘からお年玉をもら
ったんですよ。それで何かを買おうと思ってね、なんとなく
トレッキングシューズを買ってしまったんですよ(笑)

◆これからやりたいなあと思われることはありますか?

教頭になって4年目なんですけどね、僕ね、またいつか国語
の授業がやりたいなあと改めて思うんですよ。高特でも1度
授業をするチャンスがあってね、どんな風に授業を展開しよ
うか、どんな言葉かけをしたらどんな反応が返ってくるかな
って考えるのはやはりワクワクするんですよ。(その時はきっ
と来ますね☆) 先のことはまだわかりませんが、からだも
少しずつ鍛えつつ、元気と体力をキープしていきたいですね。